



第28回 ASEAN 日本語スピーチ・コンテスト優秀者発表会

様々な思い

一夢と希望、感謝と決意、今と将来、変革と警鐘

日本在外企業協会（日外協）では、2013年にASEAN各国で行われた日本語スピーチ・コンテストの優秀者を招へいしての発表会を、昨年10月24日に鉄鋼会館で開催した。発表には、インドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ブルネイ、ラオスの7カ国から若者11名が参加した。発表者は、それぞれ日本語スピーチを感情豊かに披露した。発表会には駐日大使館関係者をはじめ、大学や企業の関係者、大学生、発表者の親族・知人など119名が出席し、温かい拍手を送った。

日外協の伊藤会長からは、「日本と『日本語』に興味を持ち、熱心に勉強し、素晴らしい日本語スピーチをする若者がASEAN諸国にいることを、ぜひご認識いただきたい。また、国際交流活動は日外協の基本的な活動の1つであり、これからも継続していきたいので、今後とも皆さまのご協力をお願いしたい」との挨拶があった。

運営の協力をいただいた特定非営利活動法人アイセック・ジャパンの駒形専務理事からは、「アイセック・ジャパンは、学生の国際インターンシップを推進している団

体であり、学生のグローバル化に取り組んでいる。一方、日外協は日本企業のグローバル化を支援しており、両団体が相互に協力していくことが大切と考え、今回の事業に協力することになった。ASEANの皆さんの発表を楽しみにしている」との挨拶があった。

発表後、桜美林大学経済経営学系教授 馬越恵美子先生より、「あまりに素晴らしかったので言うことがない。メッセージがはっきりしており、一人ひとりのストーリーが見えるように感じられた。知らない国の言葉で話している感じではなかった」との講評をいただいた。

スピーチが披露された後、日外協・畑中専務理事の乾杯で始まった交流会では、ASEAN各国での日本語スピーチ・コンテストを支援した日本企業や十文字学園女子大学、早稲田大学、青山学院大学からの出席者代表にも感想を述べていただき、発表者一人ひとりにメッセージを書いた手紙を渡すなど、交流の輪を広げることができた。

以下では、スピーチの要旨をご紹介します。（以下のスピーチ内容は統一表記での要約。年齢は発表会当時のもの）

（写真は各国優秀者の皆さんと伊藤会長、講評の馬越教授ほか日外協関係者、参加国大使館関係者）

インドネシア

アンニサ ナディラ イッサディさん

（インドネシア大学 学生 20歳）

「夢を生きる」

私は小さいころから漫画が好きです。最初に好きになった漫画は『ドラえもん』と『ドラゴンボール』。初めて鉛筆の使い方を習ったときも好きな

漫画のキャラクターを描きました。明けても暮れても漫画ばかり描き、将来は漫画家になると信じて今まで生きてきました。

ある時、思い切って両親に私の夢のことを伝えましたが、まともに受け取ってくれず「漫画で生きていくなんて無理、冗談じゃないよ」と言われました。そのとき、私はすごく腹が立ちましたが、そ